

**1 学校教育目標**

知・徳・体の調和のとれた教育活動の推進

- (1) 主体的な学びを伸長する学習指導・進路指導の推進
- (2) 総合的な人間力の育成に向けた特別活動・体験学習の充実
- (3) 自主自立と社会貢献の精神を育む地域連携の取組の推進

〈中・長期目標〉 伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成をめざす

**2 令和3年度に重点を置いて目指す目標・具体的方策**

- ① **総務課**  
地域や家庭との連携協力
- ② **教務課**  
教育課程の充実及び令和4年度から始まる新学習指導要領への対応と校務支援システムのスムーズな運用
- ③ **生徒課**  
生徒と教師の信頼関係を基盤とした生活指導、年次・分掌との連携による生徒が主体の学校行事・生徒会活動の運営と活性化
- ④ **進路指導課**  
個々の生徒の希望進路に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、大学入学共通テストへの適切な対応
- ⑤ **教育相談課**  
生徒の人間関係や悩み等の諸問題に対する早期発見と早期対処
- ⑥ **情報企画課**  
校内の情報資産の安全かつ有効な利用の推進
- ⑦ **保健体育課**  
たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり
- ⑧ **SSH・理数科**  
SSH事業等による理数科および学校全体で推進する科学技術人材の育成
- ⑨ **学校図書館**  
読書活動の充実
- ⑩ **人権教育**  
人権尊重についての正しい理解及び日常の行動・態度において人権への配慮ができる人権感覚の育成
- ⑪ **業務改善**  
教職員が互いの業務内容を理解・協働して業務遂行ができる職場づくり

3 自己評価					4 学校関係者評価		
評価 領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成 度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○地域や家庭との連携協力	新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じたうえで、コミュニティ・スクールの推進を図りつつ、諸活動に取り組む。 学校ホームページの充実と迅速な情報更新を行い、地域とともにある学校づくりに努める。	4: 連携して効果的な対応ができた。 3: 連携して対応ができた。 2: 連携して対応できなかった。 1: 状況把握ができなかった。	4	新型コロナウイルス感染症対応のため、学校説明会は開催することができなかったが、今年度はオンラインによる期間限定での動画配信を行うなどの代替措置を講じ、授業公開や学校運営協議会は感染症対策を徹底して開催することができ、コロナ禍ではあったが、地域との連携を深めることができた。 また、ホームページの更新を行事実施後すぐに行い、迅速な情報発信ができた。	・コロナ禍ではあったが、様々な行事も工夫して行われている。 ・HPによる情報発信はすばらしいものがあり、保護者も様子がよくわかる。	A
教務	○教育課程の充実及び令和4年から始まる新学習指導要領への対応と校務支援システムのスムーズな運用	生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成と教育活動をスムーズに展開する。 校務支援システムの運用について更なる研修の充実を図る。	4: 年次・教科間で生徒の特性を共通理解して、円滑な教育支援と課題の改善への研究を行った。 3: 年次・教科間で共通理解をして、教育支援を行うことができた。 2: 年次・教科間での共通理解が不十分だった。 1: 生徒の特性を把握できなかった。	4	新型コロナウイルス感染症対応のため本年度も学校生活に影響はあったが、その中でもオンラインで職業人による魁講座や進路講話などを実施するなど多くの学校教育目標は達成出来たと思う。各教科と連携を図り令和4年度の教育課程を作成した。令和4年度入学生から実施される観点別学習評価についても各教科・分掌と議論を重ね、その骨子ができつつある。校務支援システムについても改善を図っている。	・新学習指導要領実施による初の観点別評価の骨子作成は大きな取組である。 ・コロナの数に翻弄され大変だったと思うが、その中でよくやったと思う。	A
生徒指導・特別活動	○生徒と教師の信頼関係を基盤とした生活指導、年次・分掌との連携による生徒が主体の学校行事・生徒会活動の運営と活性化	生徒指導の4本柱(遅刻の防止、挨拶の励行、掃除の徹底、服装・頭髪の清整)と情報モラルの指導を徹底し、基本的な生活習慣と規範意識を確立させることができる生徒を育成する。	4: 十分に指導が行き届き、9割以上の生徒が基本的な生活習慣と規範意識を確立させた。 3: 7割以上の生徒が基本的な生活習慣と規範意識を確立させた。 2: 基本的な生活習慣と規範意識を確立させた生徒が半数程度だった。 1: 基本的な生活習慣と規範意識を確立させることができなかった生徒が多かった。	4	多くの生徒が、高い規範意識を持ち、落ち着いた学校生活を送っている。コロナ禍にあり全体指導の場は制限されているが、各年次や部活動等と連携して、効果的に生徒指導を行うことができた。タブレット端末を利用した授業や連絡といったICT教育が加速する中、生徒の情報モラル意識の向上は、今後とも最重要課題である。	・ボランティア清掃の継続等、地道な取組で地域貢献にもつながっている。今後も継続してほしい。 ・SNSやネットでの問題を事例を踏まえて指導をお願いしたい。	A
		生徒自身が主体的に学校行事や生徒会活動に取り組むことで連帯感や自己有用感を高め、望ましい人間関係づくりができるように支援する。	4: 学校行事・生徒会活動が成功し、9割以上の生徒が連帯感・自己有用感を高めた。 3: 7割程度の生徒が連帯感・自己有用感を高めた。 2: 連帯感・自己有用感を高めた生徒が半数程度だった。 1: 連帯感・自己有用感を高めることができなかった生徒が多かった。	4	昨年度実施することができなかった二大行事を無事に行うことができた。コロナ禍にあり制約を受ける形ではあったが、生徒会執行部や実行委員を中心に、新しい形の行事を創り上げてくれた。学校全体での連帯感醸成や、自己有用感の向上にも大きな役割を果たしたと考えている。	・生徒にとっては非常に貴重な体験になったと思う。今後に生かしてほしい。 ・コロナ禍であっても生徒が考え工夫して行事を行ったことは大きな意義がある。 ・簡素化しながらも2大行事を行ったことはよかった。 ・2大行事のオンライン配信はよかった。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
進路指導	○個々の生徒の希望進路に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、大学入学共通テストへの適切な対応	(1年次生) 「予習・授業・復習」サイクルによる学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。大学入学共通テストに必要な基礎学力を育成する。講演会等の実施によりキャリア教育を充実させ、進路意識を高める。	4: 学習習慣が定着し、学力が向上した。 3: 学習習慣が定着した。 2: 成果があまり見られなかった。 1: 成果がほとんど見られなかった。	4	入学当初の学習オリエンテーションの実施やナビジョンの活用、オンラインによる進学説明会、進路講演会等の実施により、自己管理能力、学習計画力、進路に対する意識が向上した。授業改善、補習、夏季全員課外、アタック課外、小テストや面談を通して、学習、進路に対する意識が向上した。また下位者に対するきめ細かい指導により、例年と比較して全体として高い学力を維持している。	・学校外の教育力を活用して進路指導が推進されている。 ・常にトップクラスの成果を収めている。 ・徳山大学の公立化により質的变化が起こると思う。進学先として考えてもよいと思う。	A
		(2年次生) 学習計画、課外、模擬試験等の実施により、早期受験態勢の確立とともに進路意識のさらなる強化を図る。大学入学共通テストに対応できる学力の習得と伸長を図る。	4: 受験への取組が十分できた。 3: 受験への取組ができた。 2: 成果があまり見られなかった。 1: 成果がほとんど見られなかった。	4	授業改善、夏季全員課外、アタック課外、全員受験模擬試験、希望者模擬試験、オンラインによる進学説明会、進路講演会等の実施により、受験に対する意識を高めるとともに学力の向上が見られた。例年教科により成績にばらつきが見られるが、5教科においてバランスの取れた学力を身につけている。		
		(3年次生) 模擬試験、課外、大学入学共通テスト対策講座、小論文、面接指導等の実施により、大学入学共通テストや個別試験に対応できる学力の習得とさらなる伸長を図る。	4: 受験に対応できる学力が向上した。 3: 受験に対応できる学力が定着した。 2: 成果があまり見られなかった。 1: 成果がほとんど見られなかった。	4	6月から11月までの平日放課後課外、5月下旬からの個別添削指導、夏季希望者課外等の実施により、学力の向上が見られた。大学入学共通テスト、個別試験、小論文に対応した講演会、講座をオンラインにより予定通り実施することで、基礎学力及び受験学力が上昇した。また、全員受験模擬試験、希望者模擬試験、希望者大学別模擬試験等を積極的に受験させ、全体としての受験に対する意識と受験に対応できる学力が向上した。		
教育相談	○生徒の人間関係や悩み等の諸問題に対する早期発見と早期対応 ○いじめの未然防止及び諸問題に対する早期対応	年次や保護者、他の分掌との連携、また意識調査等による生徒の状況把握と適切な対応をおこない、生徒にとって安心・安全な学校生活の実現に寄与する。 いじめ等に関する生活意識調査を行い、生徒の状況把握・早期対応に努める。	4: 連携して効果的な対応ができた。 3: 連携して対応ができた。 2: 連携して対応できなかった。 1: 状況把握ができなかった。	3	生活意識調査の実施等によって状況把握に努めるとともに、支援が必要と思われる生徒や保護者に対してはスクールカウンセラーに迅速に対応していただき、問題に対する早期の対応に取り組んだ。 ただ、別室登校等こちらの取組が進むほど、場所等のハード面をいかに確保するかが課題となっている。 また、通級指導や合理的配慮を実施するまでの過程を公務の手引きに上げるなど、全体への理解を深める活動を行っていきたい。	・一人ひとりへの対応が違うので大変だと思う。その対応で教師が病むことがないように配慮が必要である。	B
情報企画	○校内の情報資産の安全かつ有効な利用の推進	利用可能な情報機器・資産の管理と保守を適切に行う。校内における透過性を高めて有効な活用を図る。	4: 管理と保守が適切で安全かつ完全に利用した。 3: 適切に維持・管理した。 2: 十分に管理・保守ができないことがあった。 1: 安全性または可用性の低下で業務に支障を来した。	4	県内では指導者用端末を不正利用されるというセキュリティ事案が発生したが、本校のセキュリティは厳重であり、適切に保守と管理を行った。生徒用タブレットについても、受験指導と両立しながら可能な限り活用した。	・ICTの活用をこれからも発信してほしい。 ・セキュリティ対策を今後も適切に行ってほしい。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
保健体育	○たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり	体育の授業や部活動等を通して仲間との連帯感・協調性を大切にし、自己の体力と運動能力を向上させるとともに、自分の思いや願いを話すことと同時に他人を思いやることのできる生徒を育てる。	4: 仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動していた。 3: 仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動する生徒が多かった。 2: 仲間と協力し、自主的・主体的に活動する生徒が半数程度だった。 1: 仲間と協力し、自主的・主体的に活動しない生徒が多かった。	4	授業においては新体力テストの結果をもとに、自己の体力の把握と課題の認識を行い、実施領域においての目標を設定し自主的に取り組むことができていた。また、グループワークを通して、各々の役割に対して主体的に活動できた。 体育的行事においては、新型コロナウイルス感染症防止対策の制限の中、企画・運営に対し積極的に取り組み、充実した成果をもたらした。	・生徒のケガ等の対応や保護者への連絡が迅速でよい。 ・コロナへの対応も適切である。	A
SSH・理科	○SSH事業等による理数科および学校全体で推進する科学技術人材の育成	SSH事業等を理数科と学校全体で取り組み、課題研究などの実践を通じて、全校生徒の理数や科学技術等に対する興味関心を高め、理解を深めることで、科学技術人材の育成を図る。	4: 学校全体で教育効果の高い実践ができた。 3: 学校全体で概ね計画通りの実践ができた。 2: 理数科・科学部で計画通りの実践ができた。 1: 計画した実践ができなかった。	3	他校連携を前提とする理数科合同セミナー、理数科説明会、理数体験学習、SSH科学巡検、SSH屋久島研修等の変更や中止が相次ぎ、計画通りの実践にはならなかったものの、科学部生徒による研究が高く評価され、今年度の最重要目標とした中学生による本校発表会参加の見通しが立つなど、前向きな取組は評価できる。	・中学生の発表会企画が実現できなかったが、企画はよいので継続してほしい。申込みを9月末までにすると出しやすい。 ・やりたくてもできなかったことも大きいと思う。 ・コロナ禍でも屋久島研修や校内発表会を実施し、生徒にとって充実した内容だと思う。	B
学校図書館	○読書活動の充実	読書推進のための情報提供と図書配架を行う。	4: 活動状況は例年より好調であった。 3: 活動状況は例年並みであった。 2: 活動状況は例年より低調であった。 1: 活動状況は顕著に低調であった。	3	来館者、貸出冊数が昨年度よりやや減少したものの、委員会活動や図書館教育についてはほぼ例年通り行うことができた。読書コンクールでは、県審査において1名が優良賞、1名が入選を果たした。生徒への情報提供をより活発に行っていくことが今後の課題である。	・生徒に見やすいように図書館のディスプレイ等が工夫されている。今後も充実させてほしい。	B
人権教育	○人権尊重についての正しい理解及び日常の行動・態度において人権への配慮ができる人権感覚の育成	・授業を通して人権問題についての認識を深め、人権尊重の視点を育てる。 ・講演を通して人権問題について考える。 ・学校行事を通じて共同体験の中で人権を尊重した精神や態度を学ぶ。 ・総合的な学習・探究の時間において自己に向き合う体験をさせる。	4: 取組により他者の人権に配慮する意識が高まった。 3: 取組により他者の人権に関心を持つようになった。 2: 取組の成果が十分現れなかった。 1: 状況把握ができなかった。	4	昨年度に続きLGBTに対する理解を深める活動を行った。今年度は講演を行うことができ、生徒へのある程度の投げかけは出来たと思われる。今後とも、この取り組みを継続していくことが重要であり、より生徒の理解が深まるようにしていきたい。	・性に関する問題はどのように対応するのが正解なのかが難しい。外部講師を招くのがよい。 ・いじめや人権にかかる問題のない学校を目指していただきたい。	A
業務改善	○教職員が互いの業務内容を理解・協働して業務遂行ができる職場づくり	教職員がそれぞれの業務内容を理解・協働することにより、効率的に業務を遂行し、負担感、多忙感の軽減を図る。	4: 業務内容の相互理解が進み、チームとして業務を遂行することにより、業務改善された。 3: 各分掌や主副担当間の連携による業務遂行が進み、負担感や多忙感が軽減されつつある。 2: チームとして業務を遂行しようとする意識はあるものの、業務改善につながっていない。 1: チームとしての業務体制が確立できず、教職員に時間的なゆとりが見られなかった。	3	全体としての業務時間は削減されているが、一部の負担が大きい状態は続いている。新型コロナウイルス感染症対応やICTの活用等、新たな業務が入ったことにより、一部では負担が増えたこともあり、大幅な業務時間の縮減には至っておらず、引き続き業務改善の取組を推進していく必要がある。	・教職員の事務負担軽減に向けて、さらに取組を進めてほしい。 ・部活動の取組について、土日の活動が中学校では地域活動へと変わっていく中で、高校はどう対応していくのだろうか。 ・教員数等、現状で可能な取組をしていると考える。 ・ICTを活用して効率よく業務を進めてほしい。	B

## 5 学校評価総括(取組の成果と課題)

### ① 総務課

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応のため、例年通りに実施できない行事もあったが、オンラインを活用することで学校説明会やPTA常任委員会を、例年とは異なる形式で工夫して実施し、地域や家庭との連携を図ることができた。引き続き、これまでの取組を踏襲しつつ、新型コロナウイルス感染症対応を踏まえて、工夫・改善に取り組んで諸行事の実施に努めたい。

### ② 教務課

新型コロナウイルス感染症対応のため本年度も学校生活に制限はあったが、中でも、学級閉鎖のクラスに対して、オンライン授業や課題等により授業進度を確保し、本校の学校教育目標は達成できた。

### ③ 生徒課

生徒自身が主体的に勉学と部活動・生徒会活動に取り組み、両立させた。多くの生徒が実行委員として積極的に参加し、自己有用感や連帯感が育った。二大行事では、生徒会執行部を中心に生徒同士の話し合い、調整のもと企画・運営がなされ、それぞれの場面で豊かな人間性を磨くことができた。

### ④ 進路指導課

新型コロナウイルス感染症対策を講じ、生徒との面談や情報提供等とおして進路意識の向上とともに学力の伸長が見られた。来年度は大学入学共通テスト3年目になることを踏まえ、より一層きめ細かな進路指導を推進し、生徒の希望進路の実現に向けて組織的な対応を進める必要がある。

### ⑤ 教育相談課

支援計画のスムーズな作成と共通理解をはかるため、作成に関わる年間の流れを作成した。通級指導を実施しているが、指導のための場所の確保が課題である。授業時間内に生徒のカウンセリングを実施する事が可能となり、より多くの生徒に利用してもらうことができた。別室登校を利用して生徒が学校生活に復帰できるよう、取組を進めた。ただし、別室登校の生徒が増えると場所の確保が困難となる(今年度は相談室を使用)。

### ⑥ 学校図書館

来館者数・貸出冊数は微減したものの、各学級における図書館教育により、読書への関心を高めることができた。また、読書感想文等の各種作文コンクールでも優秀な成績を収めている。

### ⑦ 情報企画課

授業では1人1台タブレット、プロジェクターを活用した授業が実施できた。オンライン授業も実施できた。生徒への連絡もGoogleClassroomが活用できている。校内でセキュリティ事案は何も発生していない。これから発生する新しい課題に臨機応変に対応したい。

### ⑧ 保健体育課

新型コロナウイルス感染症防止対策については的確で迅速な対応をおこない、感染拡大を最小限に抑えることができた。その状況の中で、学校行事についても安全対策を考慮し実施することができた。

### ⑨ SSH・理数科

課題研究の校外発表数が3年前の2倍の40件を超え、積極的な成果発信につながった。一方で、学校説明会や理数科体験学習、研究発表会等の中学校に向けたPRや連携は、新型コロナウイルス感染症まん延防止の為に中止とした。代替として学校紹介動画をオンライン配信したが、視聴回数は伸びなかった。今後、中学校との連携を回復し、感染対策をしつつ、実体験を充足させることが急務である。

### ⑩ 人権教育・いじめ対応

人権教育講座では昨年度に続きLGBTを取り上げた。生活意識調査を年3回実施して、いじめの早期発見・早期対応に努めた。また、生活意識調査の設問にSNSに関する記述を設け、生徒の啓発に繋がれるように配慮した。いじめについての問題意識を生徒が持ち続ける事ができるよう、1・2年次生を対象に集会を行った。

### ⑪ 業務改善

時間外在校等時間の平均は減少しているが、個々の教員ではばらつきが大きく、今後も可能な限り業務の平準化を進める必要がある。また、業務の重要度を管理し、メリハリを付けて業務に取り組むよう改善を行う必要がある。

## 6 次年度への改善策

- ① **総務課**  
例年と異なる形式で行った諸行事については、例年の形式と昨年度の形式で異なる部分の比較・検証を行った上で、例年の形式を踏襲しつつ、新型コロナウイルス感染症対応を踏まえて、工夫・改善に取り組む必要がある。
- ② **教務課**  
来年度も新型コロナ対策をしながら、授業時間も確保を改善を図りたい。新教育課程が始まり、また、観点別評価も始まるので、しっかりと対応していきたい。
- ③ **生徒課**  
生徒の主体的な活動、生活習慣の確立、体力の向上を推進し自主自立の精神を醸成するとともに、望ましい人間関係づくりに向けた取組を継続する。さわやかで気持ちの良い挨拶の励行に向けて、教職員から積極的な挨拶や声かけを行い、安全で活気のある明るい学び舎づくりに取り組む。
- ④ **進路指導課**  
来年度も大学入試における新型コロナウイルス感染症の影響に柔軟に対応しながら、より一層きめ細かな進路指導を推進し、生徒の希望進路の実現に向けて的確な対応をしていく。
- ⑤ **教育相談課**  
支援計画の作成に当たっては、担当者（担任）を一度に集めて行えるようにして、共通理解をはかりたい。通級指導を1人で行うケースが多かったので、生徒の実態に応じてT・Tを導入していきたい。管理職とも協議して別室登校の場所の確保を行っていきたい。本来の相談室の機能を充実させていきたい。
- ⑥ **学校図書館**  
情報発信や図書館教育を充実させ生徒の読書への関心を高める。配架方法やレファレンスサービスの工夫によって、生徒にとって利用しやすい図書室となるよう環境を整える。
- ⑦ **情報企画課**  
ホームページや緊急メールを利用して、自然災害等発生時の学校対応連絡を迅速に行うとともに、日々の教育活動の定期的な発信を行う。これから発生する新しい課題には臨機応変に対応する。
- ⑧ **保健体育課**  
新型コロナウイルス感染防止対策の継続的实施を行う。またその状況においても、生徒の主体的な取組を主眼においた、安心、安全な学校活動の企画を行い、活力ある学校づくりを推進する。
- ⑨ **SSH・理数科**  
今年度の経緯から、確実な対策実行には学校経営に対する理解と合意形成が必須だと考える。そこで継続の意見をいただいているが、これまで準備してきた中学校との様々な連携計画をいったん白紙とし、来年度の体制で改めて熟議することで有効な手立てを実施していきたい。
- ⑩ **人権教育・いじめ対応**  
生徒だけでなく、教職員を対象としたLGBTに関わる人権講座を実施していきたい。生活意識調査のデータ入力に関わる教員負担の軽減と、生徒に記述させる事の意義とのバランスがとれるか、協議していく。生活意識調査を生徒の啓発に繋がるようなものに出来ないか、設問の改善を考えていきたい。
- ⑪ **業務改善**  
新教育課程の開始に伴う各種業務の増加が見込まれることから、業務を見直し、スクラップアンドビルドを進める。また、ICTを活用した資料の共有や協働をさらに進め、業務の効率化を推進する。